

<論文>

アラビア語における名詞の内容節：
日本語との対照研究に向けて
Noun content clause in Arabic:
Towards a contrastive study with Japanese

モハンマド・ファトヒー
Mohamed Fathy

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿では、アラビア語の名詞の内容節（例えば、*ḥaqi:qatu ʔanna …/～*という事実）について考察する。先行研究では、名詞の内容節が考察対象とされず、その用法などに関する記述を欠いており、アラビア語学習者に予期しがたいものである。本稿では、どの名詞が内容節を取るかを調べ、名詞のリストを作った。そして、日本語及び英語の先行研究に見られる分析の視点や捉え方を参考に、アラビア語における内容節を取る名詞について、一考察を行い、内容節を取る動詞等との関連性を検討した。

Abstract: This paper deals with the noun content clause in Arabic e.g., the phrase *ḥaqi:qatu ʔanna*, or “the fact that...”. In previous studies, the noun content clause in Arabic was not investigated nor described, and therefore unpredictable for Arabic learners. In this paper, nouns that take content clauses were investigated and a list of these nouns was made. Then, with reference to the aspects of the analysis found in previous studies in Japanese or English, content clause taking nouns in Arabic were further analyzed and the relationship to content clause taking verbs was examined.

キーワード：内容節，補文，名詞補文化，アラビア語

Keywords: content clause, complement clause, noun complementation, Arabic

1. はじめに

本稿では、次の(1)のような表現を対象とする。

(1) حَقِيقَةٌ أَنَّ فَيْرُوسَ كَوْرُونَا اَثَّرَ عَلَيَّ حَيَاتِنَا

ḥaqi:qatu	ʔanna	vajrus	korona	ʔaθθara	ʕala:	ḥaja:tina:
fact.SG.NOM	COMP	virus.SG.ACC	corona.SG.GEN	Affect.PST.3SG	on	Life.SG.GEN-our

(コロナウイルスが私たちの生活に影響を及ぼした(という)事実)

(1)では、ʔanna(補文標識)に導かれる節「コロナウイルスが私たちの生活に影響を及ぼした」は、先行する名詞 *ḥaqi:qatu*(事実)という名詞にかかり、その意味を補充する形でその内容、すなわち事実の内容を表している。ここでは、*ḥaqi:qatu*(事実)のような名詞を主名詞、それにかかりその内容を表す節を内容節と呼び、本稿の考察対象とする。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

名詞の内容節は、どんな名詞とでも結びつき、その内容を補充できるというわけではない。また、名詞の内容を補充する表現形式には、上の (1) 節だけではなく、後述するように、先行研究において等価表現として扱われる、次の (2a) に示される名詞の名詞による表現形式や次の (2b) ~ (2d) に示される諸表現形式なども挙げられる。なお、(2a) と (2b) に見られる、補文標識の ?anna に前節する前置詞の bi は、日本語の助詞「で」のように、道具及び手段や場所などの用法があるが、本稿の第 5 節の (27) 及び (28) で見ると、それらの用法の他に、日本語の助詞「と」のように、内容を表す用法が見られるため、下記のグロスでは、意味を割り当てずに、bi と表記する。

(2)

a	bi-?anna ?amala-hu bi-COMP work.ACC-his	بِأَنَّ عَمَلَهُ إِنْتَهَى intaha: finish.PST.3S (彼の仕事が終わった)	رِسَالَةٌ risa:latun (メッセージ)
b	bi- intaha:? bi-finishing.GEN	بِإِنْتِهَاءِ عَمَلِهِ ?amali-hi work.GEN-his (彼の仕事の終了)	
c	fi:-ha: ?anna ?amala-hu in-it COMP work.ACC-his	فِيهَا أَنَّ عَمَلَهُ إِنْتَهَى intaha: finish.PST.3S (その中に彼の仕事が終わったこと (が書かれている))	
d	taqu:l ?inna ?amala-hu say.PRS.3SG COMP work.ACC-his	تَقُولُ إِنَّ عَمَلَهُ إِنْتَهَى intaha: finish.PST.3S (彼の仕事が終わったと言う)	
	.		
	.		
	.		

(2a) ~ (2d) に示される諸表現形式は、Dixon (2006) の用語を借りて言えば、(2a) は、Complement clause (補文節)、補文節と同様な機能を果たすとされる (2b) ~ (2d) の表現形式は Complementation strategies (補文化ストラテジー)¹になる。

本稿では、(2a) ~ (2d) に示される諸表現形式のうち、(2a) における節による内容補充のみを考察対象とする。ただし、内容節をとりうる一連の名詞が、(2b) のような動名詞 (名詞化のストラテジー) を用いた内容節をとるかどうかなについては別途確認する必要がある。というのは、(2b) は (動) 名詞

¹ 具体的に言えば、(2b) は、Nominalization strategy (名詞化のストラテジー)、(2c) は、Relative clause strategy (関係詞節のストラテジー) になる。(2d) に関しては、該当するストラテジーがないが、関係文のような名詞修飾の表現が用いられているため、Relative clause strategy (関係詞節のストラテジー) と見てもよいだろう。

intaha:? (終了) と名詞 ζ amali (仕事) という二つの名詞の結びつきによる表現形式であり、先行研究においては、このような名詞による名詞の修飾表現は、本稿でいう内容節の等価表現として扱われるからである。

どの名詞が内容補充を受けることができるのか、またはどのような表現形式による内容補充なのかという情報を先行研究や学習書で調べると、記述が見当たらず、また、Badawi et al. (2016) を除き、用例の掲載も見られない。辞書に関しても、節による内容補充の用例が見られるものの、少数の名詞にしか見られず、情報が十分であると言えない。このように、名詞の内容節は、アラビア語学習者にとって予期しがたいものであり、しばしば誤りをおかす。次の (3) は、大学4年間アラビア語を専攻にした学習者による訳文である。

(3) عِنْدَمَا تَنْظُرُ لِلرَّسْمِ ٢، تَعْرِفُ عِلَاقَةَ أَنَّ نِسْبَةَ تَأْيِيدِ الْحِزْبِ الْإِسْتِرَاقِيِّ تَرْتَفِعُ إِذَا انْخَفَضَتْ نِسْبَةُ تَأْيِيدِ الْحِزْبِ
 اللِّبْرَالِيِّ

ζ indama:	nand ^u uru	li-rrasm	2	na ζ rifu	ζ alaaqata	?anna	nisbata	ta?yyi:di
when	look.PRS.1PL	to-ART-chart.GEN	2	know.PRS.1PL	relationship.ACC	COMP	ratio.ACC	support.GEN
l-hizbi	l-iftira:kiyyi	tartafi?u	?iða:	inxafad ^{at}	nisbatu	ta?yi:di	l-hizbi	
ART-party.GEN	ART-socialist.GEN	rise.PRS.3SG	if	decrease.PST.3SG	ratio.NOM	support.GEN	ART-party.GEN	

l-libra:liyyi

ART-liberal.GEN

(図2を見ると、1960～70年代は自民党の支持率が下がれば社会党の支持率が上がるという関係だったが、…) 「ニッポンドットコムより?」

(3) では、(1) と同様に、名詞 ζ alaaqatu (関係) がそれに後続する ?anna に導かれる名詞節による内容補充を受ける構造になっている。しかし、名詞 ζ alaaqatu (関係) は ?anna に導かれる名詞節による内容補充を受ける名詞ではなく、(2) におけるような意味関係が成立しない。なお、(3) の訳文を訂正すると、名詞修飾表現以外の表現形式を使うことになる。

このように、アラビア語の研究では、名詞の節による内容補充に関する研究及び記述が欠いており、名詞の視点から名詞の内容補充を研究する必要がある。本稿では、アラビア語における内容節による内容補充を受けられる名詞を調べることを目的とする。具体的に、どの名詞が内容補充を受けられるのか、また、どの名詞が内容補充を受けられないのかということ調べ、今アラビア語を第2言語として習得もしくは使用する者が必要とすると考えられる最低限の情報を調べ、提供する。

本稿の構成は次の通りである。第2節では、日本語及び英語の先行研究を参考に、「内容補充」という概念を整理し、内容補充を受ける名詞の捉え方に関する記述を概観する。第3節では、筆者が調べた先行研究の中で唯一名詞の内容節の用例を掲載した Badawi et al. (2016) による内容節の用法記述をまとめる。第4節では、本稿の調査内容を述べる。まず、データ収集及び分析を説明し、調査結果を提示する。第5節では、日本語及び英語の先行研究に見られる捉え方を参考に、アラビア語における内容節を取る名詞について一考察を行う。

² <https://www.nippon.com/ja/in-depth/a01104/>

2. 「内容補充」概念と内容補充を受ける名詞について

これまで適切に説明もせず「内容補充」という言葉を使ってきたが、いったい「内容補充」とはどのような概念であろうか。また、内容補充を受ける名詞には、どのようなものがあるのか。ここでは、この2点について日本語及び英語の先行研究に見られる記述を概観する。

次に、まず (1) の英訳を挙げ、英語の先行研究の記述から見て行く。

(1) The fact that Covid-19 affected our life

(1') における下線部の **that** 節は、先行する名詞 **fact** (事実) に対して **complement clause** (補文節) として意味的に補足 (**complement**) する。Quirk et al. (1985) は、この名詞と補文節との間の関係、いわゆる **complementation** (補文化) を次のように定義する。

“... a part of a phrase or clause which follows a word, and completes the specification of a meaning relationship which that word implies”

Quirk et al. (1985:1150)

「ある語に後続する句及び節の一部で、その語が含意する意味的關係の明細を補足する」
(和訳は筆者による。以降も同様.)

「事実」という意味のこの名詞、いわば抽象名詞は、それ単独で意味的に充足しておらず、通常どういふ事実なのかという意味的限定、すなわち事実とされる事柄がなければ、談話の場に持ち出すことができない。補語を要求する動詞のように、この種の名詞が持つ内容もしくはその中身には意味的空所のようなものがあると考えられ、この意味的空所を補う必要がある。なお、名詞の内容を補う働きの **that** 節は、補文節の他に、Jespersen (1927), Zandvoort (1965), Huddleston (1984), Huddleston & Pullum (2002) などでは、**content clause** (内容節) と呼ばれている。この命名からも窺えるように、名詞の内容を表す節として捉えられている。Zandvoort (1965) は次のように述べている。

“... they (=content clauses) express the 'contents' of the noun on which they depend, ...”

Zandvoort (1965:222)

「内容節は、それが従属する名詞の「内容」を表し…」

英語では、どのような名詞が内容節を取るかについては従来から様々な考察がなされてきたが、三省堂『現代英文法辞典』において「情報内容の存在を前提とする抽象名詞」と定義されるように、また、Quirk et al. (1985:1260) が **general abstract noun** としているように、一般的な抽象名詞が内容節を取るとされている。更に、内容節を取る抽象名詞には、次の3通りがあるとされている。

- (4) a. 本来名詞の形でしかないもの : **fact** (事実), **idea** (考え) など
- b. 動詞から派生されたものや同じつづりで動詞として使われるもの : **belief** (信仰), **knowledge** (知識); **answer** (答え), **report** (報告) など
- c. 形容詞から派生されたもの : **certainty** (必然性), **possibility** (可能性) など

そして、(4b) や (4c) の名詞は、その基体となる動詞や形容詞が *that* 節などを目的語として取るものが多い。次に、例を挙げる。

(5) a. The police reported that the drugs had been found.

(警察は麻薬が見つかったと報告した。)

b. The police report that the drugs had been found (appeared in the press today)

(麻薬が見つかったという警察報告 (は今日報道された))

Quirk et al. (1985:1261)

どのような名詞が内容節を取るかについては、考察視点としては上記の他に、名詞の意味という観点からも考察がなされており、同じ範疇的な意味に属する名詞がどういう構文的もしくは意味的特徴を持つかなどに関する記述が行われているが、本稿の調査目的とは直接的に関係がないことから、ここでは内容節を取る名詞の意味的な分類に触れないことにする。

以上、英語の先行研究に見られる「内容補充」及び内容補充を受ける名詞の捉え方について述べた。

次に、日本語の先行研究に見られる記述をまとめる。

名詞の内容補充は、「外関係」の連体節の意味的機能とする記述が寺村 (1993) に見られ、ここでは、寺村 (1993) に見られる記述を取り上げるが、その記述を取り上げる前に、まず、「外の関係」の連体節について簡潔に説明する。

(6) 川に着陸した飛行機

cf. 飛行機が川に着陸した。

(7) 川に飛行機が着陸したという話

cf. 飛行機が話 {*が, *を, *に, *で, …} 川に着陸した。

(6) では、「飛行機が川に着陸した」という書き換えで示されるように、下線部の節内に主名詞「飛行機」を復元できる。言い換えると、主名詞が節の「内」にある。それに対して、(7) では、「飛行機が話 {*が, *を, *に, *で, …} 川に着陸した」に示されるように、主名詞は節内に復元できない。つまり、主名詞が節の「外」にあると言える。寺村 (1993) は、(6) のタイプを「内の関係」、(7) のタイプを「外の関係」と呼んでいる。

「内の関係」と「外の関係」との違いは上記のような構文的なものだけではない。寺村 (1993:197) は主名詞に対して付加的な修飾をする「内の関係」に対して、「外の関係」の節が「底の名詞を『内容補充的』に修飾している」と指摘し、「外の関係」の主名詞に対する働きを「内容補充」としている。

(1') の名詞 *fact* と同様に、〈話されたこともしくは話されていること〉を意味する日本語の「話」は、それだけでは、何が話されたか、話された内容が分からない。すなわち、話された内容、すなわち「話」の中身が意味的な空所になっていると考えられ、それを補う必要がある。この意味的な空所は、(7) の下線部のような内容節による情報で埋められている。

どのような名詞が「外の関係」の連体節の主名詞になるかについては、主に内容節による補充の仕方と名詞の意味という2つの観点から考察が行われている。次に、寺村 (1993) が挙げている名詞タイプに沿って、寺村 (1993) の記述をまとめる。

寺村 (1993) は「外の関係」の連体節の主名詞となる名詞を意味的に次の4種類に分類している。

- ア. 「発話・思考」名詞: 「手紙」「申し出」「誘い」「命令」 / 「思い」「考え」「想像」「意見」
- イ. 「コト」を表す名詞: 「事実」「運命」「習慣」「可能性」「仕事」「方法」「準備」
- ウ. 「感覚」の名詞: 「姿」「形」「音」「匂い」「味」「感触」「絵」
- エ. 「相対性」の名詞: 「前」「前日」「上」「下」「理由」

寺村 (1993) は主名詞と、節によって表される内容との間の意味関係に着目し、「ふつうの内容補充」と「相対的内容補充」という二つのタイプを立てている。上のア～ウの名詞は、「ふつうの内容補充」を受ける名詞であり、上のエの「相対性」の名詞は、主に「相対的内容補充」を受けるとしている。「ふつうの内容補充」では、節が主名詞の内容をそのまま補充しているタイプであるが、「相対的内容補充」は、補充部が主名詞の内容をそのまま補充しているとは言えないタイプである。例えば、

(8) 火事が広がった原因は空気が乾燥していたことだ。 寺村 (1993:199)

(8) の「火事が広がった」は主名詞「原因」の内容ではなく、「空気が乾燥していた」という「原因」による結果であり、「原因」の内容を表しているのは、主節である。このように、上のア～エの名詞のうち、エの「相対性」の名詞は、異なった振る舞いを見せていることが分かる。

前記の名詞の意味的分類のア～ウのうち、アの「発話・思考」名詞と「感覚」の名詞に関しては、寺村 (1993) は、名詞の内容補充表現は、ある内容が文に近い形で表される点において、「言う」、「思う」、「見る」などの動詞の内容を補充する「ト」の引用節や、「ノ・コト」の名詞節と共通していると捉え、上の (4) や (5) で見た英語における捉え方のように、「ト」の引用節や「ノ・コト」の名詞節を取る動詞と、名詞の内容補充表現の主名詞となる名詞との間の意味的な対応関係に注目している。更に、前記のア～ウの名詞の中には「手紙」や「絵」などのような表現作品を表す名詞があることから、寺村 (1993) が考える動詞と名詞との間の対応関係は形態的なものの他に、意味的なものも含まれていると言える。

「コト」を表す名詞に関しては、寺村 (1993) は、「発話・思考」名詞や「感覚」の名詞と異なり、「言う」や「思う」や「見る」などといった、発話・思考や感覚による認識を表す動詞に関係づけることはできないが、その内容を文の形で表すことができるとしている。

以上、英語と日本語の先行研究に見られる「内容補充」及び内容補充を受ける名詞の捉え方を概観した。次の第3節では、Badawi et al. (2016) に見られる名詞の内容節を取り上げ、内容節の捉え方を見て行く。

3. Badawi et al. (2016³) における記述

第1節で述べたように、アラビア語の先行研究や学習書で調べると、名詞の内容補充に関する記述が見当たらず、用例の掲載が見られたのは、Badawi et al. (2016) のみである。ここでは、本稿の考察対象に該当するに見られる例を引用し、Badawi et al. (2016) に見られる記述をまとめる。なお、用例の掲載は、補文標識?an と?anna の記述に見られ、先に、?an の例を引用する。

³ 初版は2004年。

(9) اِحْتِمَالٌ أَنْ تَكُونَ الْكَنِيسَةُ قَدْ أُفِيْمَتَ فَوْقَ مَعْبَدِ رُومَانِيٍّ⁴

ihtima:lu ?an taku:na l-kani:satu qad ?uqi:mat fawqa maʕbadin ru:ma:niyyin
possibility.NOM COMP be.PRS.3SG ART-church.NOM PTL.erec.PST.PASS.3SG over temple.GEN roman.GEN

the possibility of the church having been erected over a Roman temple

(教会が古代ローマ神殿の上に建てられた可能性) (和訳は筆者による。以下も同様。)

(Badawi et al. 2016:663)

(10) وَقَالَ إِنَّ الْوَزَارَةَ تَدْرُسُ إِمْكَانِيَّةَ أَنْ تُصَيِّحَ الْمُسْتَشْفِيَّاتِ التَّخْصُصِيَّةُ ... شِبْهَ خَاصَّةٍ

wa qa:la ?inna l-wiza:rata tadrusu ?imka:niyyata ?an tusʕbiha
and say.PST.3SG COMP ART-ministry.GEN study.PRS.3SG possibility.ACC COMP become.PRS.3SG

l-mustaffaya:tu t-taxasʕusʕiyyatu ... ʕibha xa:sʕatin
ART-hospitals.NOM ART-private.NOM semi.GEN private.GEN

and he said that the Ministry is studying **the possibility of** the private hospitals... **becoming** semi-private

(そして彼は，省は民間病院が…準民間になるという可能性を検討していると言った)

(Badawi et al. 2016:663)

(11) قَالَ إِنَّهُ يَمْجَرِدُ أَنْ عَلِمَ جَاءَ عَلَى الْقَوْرِ

qa:la ?inna-hu bi-muzarradi ?an ʕalima za:?a ʕala: l-fawri
say.PST.3SG COMP-PRON.3SG at-abstract.PASSPTCP COMP know.SGPST.3 come.PST.3SG immediately

he said that **as soon as he found out** he came immediately

(彼はそれを知った直後にすぐに来たと言った)

(Badawi et al. 2016:664)

(9) ~ (11) は，Badawi et al. (2016) が *complementizer* (補文標識) としている ?an の例として挙げている。(9)における名詞 ihtima:l (蓋然性/可能性) や (10)における名詞 ?imka:niyyata (可能性) は，実質的な意味で用いられるのに対して，(11)の名詞 muzarradi は，本来，「抽象されたもの」を意味する，いわゆる受動分詞であり，アラブ伝統文法においては，名詞として扱われるものであるが，(11)に示されるように，受動分詞及び名詞から「~あと」という意味の接続詞へと転成し，文法化したと考えられる。

主名詞と節との間の構造的な関係については，Badawi et al. (2016) は，*annexation* (付加) の結びつきを成しているとしている。付加の結びつきとは，アラビア語の文法学の用語である「イダーファ」の訳語であろうと考えられ，日本語の「~の~」でいうような名詞による名詞修飾の結びつきのことである。日本語の文献には，「属格関係」と訳されることが多い。先行する名詞とそれに後続する ?an 節の関係を「付加の結びつき」とする理由は，下記の引用にあるように，?an 節が名詞に置き換えることができるとされるからである。

Badawi et al. (2016:657) は補文標識の ?an については，下記のように説明している。

'an أَنْ is known as 'an al-maʕdariyya الْمَصْدَرِيَّةُ 'the verbal noun 'an أَنْ' owing to the general substitutability of its verbal clause with the verbal noun. In theory, any

⁴ 母音記号及びグロスは筆者による。英訳は Badawi et al. (2016) により引用している。転写は，本稿の転写方法に従う。以降も同様。

'an أَنْ clause can be replaced by a verbal noun. 'an أَنْ clauses can function as subject, object, predicate, or in any other nominal function.

(Badawi et al. 2016:663)

(('an (アン) は, 'an al-mašdariyya (アン・アルマスダリーヤ)「動 (詞的) 名詞の 'an (アン)」と呼ばれる。それは, 動詞を含む'an (アン) 節を動名詞に置き換えられるからである。理論上は, どの'an (アン) 節でも動名詞に置き換えることができる。'an (アン) 節は, 主語, 目的語, 述語, またはその他の名詞的な機能を担うことができる。)

名詞句に置き換えられるため, 名詞 (句) に後続する'an 節及び後述する'anma 節と先行する名詞との統語的關係を「イダーファ」, すなわち *annexation* (付加) とするという Badawi et al. (2016) の扱いに対して疑問が残る。というのは, *annexation* (付加), いわば名詞による名詞修飾の結びつきにおいては, 名詞の意味に限定を加えるような定冠詞の al が先行する名詞ではなく, 原則として *annexation* (付加) として働く後続する名詞に付くからである。しかし, 本稿の (23) などに見られるように, 先行する名詞, 本稿でいう主名詞に定冠詞の al が付くことがあり, 後続する内容節が *annexation* (付加) として働くと考えにくい。それに, Cantarino (1974:92-119) の記述からも窺えるように, アラビア語の名詞句において *adjunct* (付加部) と *complement* (補部) の区別が認められることが分かり, *annexation* (付加) は, *complement* (補部) と同様の振る舞いをするのに対して, 名詞の内容節は, *adjunct* (付加部) と同様の振る舞いを見せることがある。次に, まず, Radford (1988:187-191) の例を使ってアラビア語の名詞句における *adjunct* (付加部) と *complement* (補部) の振る舞いの違いを示す。

(12) جَاءَ طَالِبٌ فِيْزِيَاءٍ بِشَعْرٍ طَوِيْلٍ لِمُقَابَلَتِيْ أَمْسٍ.
 za:ʔa t'a:libu fizija:ʔi bi-ʃaʃrin t'awi:lin li-muqa:balati: ʔamsi
 come.PST.3SG student.NOM physics.GEN with-hair.GEN long.GEN to-meeting-my yesterday

A student of physics with long hair came to see me yesterday.

(12a) جَاءَ طَالِبٌ لِمُقَابَلَتِيْ أَمْسٍ فِيْزِيَاءٍ.*
 *za:ʔa t'a:libu li-muqa:balati: ʔamsi fizija:ʔi
 come.PST.3SG student.NOM to-meeting-me yesterday physics.GEN

A student came to see me yesterday of physics.

(12b) جَاءَ طَالِبٌ لِمُقَابَلَتِيْ أَمْسٍ بِشَعْرٍ طَوِيْلٍ.
 za:ʔa t'a:libu li-muqa:balati: ʔamsi bi-ʃaʃrin t'awi:lin
 come.PST.3SG student.NOM to-meeting-my yesterday with-hair.GEN long.GEN

A student came to see me yesterday with long hair.

(12) に示されるように, (12a) における *annexation* (付加) の外置が許されないのに対して, (12b) における前置詞句の外置が可能である。このように, 外置の許されない *annexation* (付加) は, *complement* (補部) の振る舞いをする事が分かる。アラビア語の *annexation* (付加) では, 原則として修飾する名詞, 先行する名詞に後続し, 両者の間に他の修飾要素などの介在が許されない。一方, 次の (13) で示されるように, 名詞の内容節の場合, その主名詞との間にときの副詞などの介在が許されることがあ

る。

(13) جَاءَتْ تَعْلِيمَاتٌ أَمْسَ مِنْ الْوَزَارَةِ إِلَّا تَتَكَلَّمُ مَعَ الصَّخَافَةِ.

ʒa:ʔat	taʕli:ma:tun	ʔamsi	mina-l-wiza:rati	ʔa-lla:	<u>natakallamu</u>	<u>maʕa-sʕaħa:fati</u>
come.PST.3SG	instructions.NOM	yesterday	from-ART-ministry	COMP-NEG	speak.PRS.1PL	with-ART-media.GEN

(私たちのところに，昨日省よりメディアに話してはいけないという指示が来た.)

(13) に見られるように，太字の名詞 *taʕli:ma:tun* (指示) と下線部の内容節との間には，時の規定を表す *ʔamsi* (昨日) と 出処を表す *mina-l-wiza:rati* (省から) が介在しており，内容節が外置されている。それに，名詞 *taʕli:ma:tun* の語尾に非限定を表す *-n*，いわゆるタンウィーン⁵をとっていることから窺えるように，名詞 *taʕli:ma:tun* と内容節の関係は，*annexation* (付加) の関係ではない。というのも，「A の B」という名詞句が非限定されている場合，非限定を表す *-n* が前者の名詞 (上の (13) でいう名詞 *taʕli:ma:tun*) ではなく，後者の名詞に付くからである。

このように，名詞の内容節は *annexation* (付加) と異なる振る舞いを見せており，*annexation* (付加) としての捉え方を再検討する必要がある。

本稿の考察対象に該当するに見られる例は，他に，*compound prepositional phrases* (複合前置詞句) として働く *ʔan* 節の例の中にも見られる。次に例を引用する。

(14) بِمُجَرَّدٍ أَنْ تَتَكَوَّنَ تَبْقَى فِي الْبَيْتَةِ

bi-muzarradi	ʔan	tatakawwana	tabqa:	fi:	l-bi:ʔati
at-abstract.PASSPTCP	COMP	form.PRS.3SG	remain.PRS.3SG	in	ART-environment.GEN

as soon as they are formed they remain in the environment

(それらは形成された直後に，環境に残る)

(15) بِشَرْطِ أَنْ تَقُومَ الْفِرْقَةُ بِالسَّاهِمَةِ فِي تَأْتِيهِ وَتَجْهِيهِ الْمَسْرَحِ

bi-fartʕi	ʔan	taqu:ma	l-firqatu	bi-l-musa:hamati	fi:	taʔθi:θi
on-condition.GEN	COMP	carry.PRS.3SG	ART-company	out-ART-paticipation.GEN	in	furnishing.GEN

wa	taħhi:zi	l-masrahi
and	equipping.GEN	ART- theatre.GEN

on condition that the company [of actors] **takes a share in** furnishing and equipping the theatre

(劇団が劇場の備品 (の調達) や設備に貢献するという条件で)

(Badawi et al. 2016:672)

(14) や (15) における名詞の *muzarradi* (直後) 及び *fartʕi* (条件) は，前置詞の *bi* (～で) と組み合わせることで，前置詞と名詞が全体として「～した直後」や及び「～という条件の下で」という意味で慣用的に用いられている。なお，(14) の *muzarradi* (直後) は，上の (11) と同様の用法で，Badawi et al. (2016:672)

⁵ アラビア語には，英語の *a/an* に相当する不定冠詞がないが，名詞の語尾に *-n* を付け加えることで，名詞に非限定の意味を付加する。

は、複合前置詞句の場合でも、ʔan 節と名詞の間には、「付加の結びつき」、すなわち名詞による名詞の修飾関係が認められるとしている。

上記のʔan 節の他に、Badawi et al. (2016) では、(1) におけるʔanna も同様に扱われている。Badawi et al. (2016) によると、ʔanna も nominalizer (名詞化辞) という機能を持つ補文標識であり、ʔan と同様に、それによって導かれる名詞節が文において名詞の担うあらゆる機能を担うことができる。

'anna أَنْ 'that' clauses

'anna أَنْ is a nominalizer and the resulting noun phrase has various functions. 'anna أَنْ is followed by complete sentences of either nominal or topic comment type, the resulting clause becoming a noun phrase and assuming all the functions of a noun phrase.

(Badawi et al. 2016:674)

(ʔanna (アンナ) 「that 節」)

'anna (アンナ) は、名詞化辞であり、それに導かれる名詞句は多様な機能を担う。

'anna (アンナ) に後続するのは、名詞文⁶もしくは主題題述タイプの完全な文である。

'anna (アンナ) 節は、名詞句として文中の名詞句のあらゆる機能を担う。

Badawi et al. (2016) では、ʔanna 節が名詞の内容補充するような例としては、上の (1) のような典型例とも思われる例ではなく、次の (10) と (11) のように、慣用的に使われている名詞の例を挙げられている。

(16) **إِنْتَقَدَ بوش إقْتِرَاحَ كلنتونَ عَلىَ أساسِ أَنَّهُ سَيُؤَدِّي إِلىَ فُقدانِ مَليونِ شَخْصٍ لَوْطائِفِهِم**
 intaqada buʃ iqtira:ħa klintun ʔala: ʔasa:si ʔanna-hu sa-yuʔaddi:
 criticize.PST.3SG Bush proposal.ACC Clinton.GEN on basis.GEN COMP-his FUT.lead.PRS.3SG

ʔila: fuqda:ni malyu:ni ʃaxsʕin li-waðʕ: ʔifihim
 to losing.GEN million.GEN person.GEN of-jobs.GEN-their

Bush criticized Clinton's proposal **on the basis that it** would lead to a million people losing their jobs
 (ブッシュは、100 万人が職を失うことにつながるという根拠でクリントンの提案を批判した。)

(17) **عَلىَ إِعتبارِ أَنَّ الوِحدةَ هِيَ أَهمُّ أَسْئِساتِ النَّاصِرِيَّةِ**
 ʔala: iʕtiba:ri ʔanna l-wihdata hiya ʔahammu
 on consideration.GEN COMP ART-unity.GEN PRON.3SG[COP] most important.NOM

ʔususi n-na:siriyyati
 foundation.GEN ART- Nasserism.GEN

considering that unity is the most important foundation of Nasserism
 (その団結がナーセル主義の最も重要な基盤であると考えれば)

(Badawi et al. 2016:680)

⁶ アラビア語の文法用語で、名詞で始まる文のことを指す。

(14) や (15) と同様に，(16) や (17) における名詞の ?asa:si (基礎／根拠) 及び $\text{i\text{ʕtiba:ri}}$ (考慮) は，前置詞の $\text{\text{ʕala:}}$ (～の上に) と組み合わせさせて慣用的に用いられると考えられる．というのは， ?asa:si (基礎／根拠) 及び $\text{i\text{ʕtiba:ri}}$ (考慮) は，上記の用法以外，すなわち単独で前置詞の $\text{\text{ʕala:}}$ (～の上に) なしでは，基本的に ?an 節を取らない．名詞の ?asa:si (基礎／根拠) に関して言えば，前置詞の $\text{\text{ʕala:}}$ (～の上に) があって初めて「根拠」という意味を表す．

本稿では，(11) や (14) ～ (17) に見られるような名詞の扱いについて検討する余地があると考えられる．とりわけ，文法化したと考えられる (11) 及び (14) の muzarradi のような名詞や上の (16) の ?asa:si のような，一定の環境の下でしか内容節を従えないと考えられるような名詞の場合，内容節を従える他の名詞と同様に扱っていかどうか考える必要がある．

なお，Badawi et al. (2016:680) は ?anna 節についても ?an 節と同様に，節と名詞の間には，*annexation* (付加)，すなわち名詞による名詞の修飾関係が認められるとしている．本稿の立場としては，前記の (12) と (13) で検討した構造的な関係の違いが見られるため，内容節とその主名詞との間の構造的な関係を再考する必要があると考えている．それに加え，下記の例で示すように，そもそも (動) 名詞句と内容節が置き換え可能な対関係にあるとして，両者の表現の間には，意味の違いがあると考えられる．次に，上の (1) の ?anna を動名詞に置き換えてみる．

(1') حَقِيقَةُ تَأْتِيرِ فَيْرُوسِ كُورُونَا عَلَي حَيَاتِنَا

haqi:qatu	taʔθi:ri	vajrus	korona	$\text{\text{ʕala:}}$	ħaja:tina:
fact.SG.NOM	effect.GEN	virus.SG.ACC	corona.SG.GEN	on	Life.SG.GEN-our

(1') にも示されるように， ?anna 節を動名詞に置き換えることができるが，動名詞が使われると，「コロナウイルスによる私たちの生活への影響の事実／真相」という解釈もできるようになり，多少の意味の変化が生じたと考えられる．筆者の意見では，この解釈の方が優先され， ?anna 節が使われている．「コロナウイルスが私たちの生活に影響を及ぼしたのは事実だ」という解釈は，かなりの程度に文脈の支えが必要になる．

以上，Badawi et al. (2016) の記述を概観した．従来の文法書に見られない名詞の内容節に触れ，その用例を掲載しているものの，どの名詞が内容節を取るかについての言及や内容節を取る名詞のリストなどが見られない．英語や日本語の先行研究に比べて，アラビア語における名詞の内容節の記述が不十分であり，次のような疑問が残る．

- 1) 内容節とその主名詞との関係をアラビア語でいう「イダーファ (付加)」とする根拠はいったいどこにあるのか．両者の構造的な関係はどう捉えるのか
- 2) ?an 節及び ?anna 節が動名詞と常に置き換え可能なのか．両者の表現形式にはニュアンスの違いなどがあるのか
- 3) どの名詞が ?an 節を取るのか，どの名詞が ?anna 節を取るのか

上の 1) と 2) は今後の研究課題とし，本稿では，次節で取り上げる名詞の調査に基づき，3) のどのような名詞が内容節を取るのかを検討する．

4. 本稿の調査について

4.1. データ収集及び分析

ここでは，データ収集の具体的な手順を説明する前に，アラビア語の特性とアラビア語のデータを収

集する際の留意点について述べる。

アラビア語圏では、「ダイグロシア」(diglossia) の状況が存在し、アラビア語は、事実上公的機関など文書で使用される H 変種 (high variety) である標準語 (「フスハー」と呼ばれる) を指す。一方、会話では主に各地の方言 (「アーンミイヤ」と呼ばれる) が用いられており、L 変種 (low variety) とされている。この H 変種標準語は、古典アラビア語 (Classic Arabic) またはコーランのアラビア語を基としており、何世紀にもわたって変化を遂げ、現在、現代標準アラビア語 (Modern Standard Arabic) として広く使われており、アラビア語を扱う研究の主な対象となっている。しかしながら、この現代標準アラビア語でも、Ratcliffe (2002:163) で述べられているように、「だれかの母語というわけではなく、アラビア語母語話者でも学校で学ぶしかないものである」。

本稿では、現代標準アラビア語を対象とするが、前述したアラビア語の特徴や使用状況を考慮に入れ、データの収集にあたって次の 2 点を注意する。

- 1) 古典アラビア語を重視し書かれる宗教関連などのものに関しては、現代標準語の用法を反映していると考えられないため、その用例を収集しないことにする。
- 2) 新聞記事や文学作品などのように、現代標準語を中心に、正確なアラビア語で書かれたと考えられるものから用例を収集することにする。

上の 2) でいう正確なアラビア語とは、表現が書かれる現代標準語として自然で違和感のないものとして認識できるもののことを言う。前述したアラビア語の使用状況等により、書かれる現代標準語の表現や語の用いられ方などには、口語や外国語などの影響により変化が見られる。例えば、

(18) وَصَعْتُ فِي رَأْسِي هَدَفَ أَنْ أَلْعَبَ فِي الْبَرِيمِيرَلِيغِ مَرَّةً أُخْرَى

wad'aʃtu fi: raʔs-i: hadafa ʔan ʔalʕaba fi-l-brimi:ri:gi marratan ʔuxra:
put.PST.1SG in head.GEN-my goal.ACC COMP play.PRS.1SG in-ART-PremierLeague.GEN time.ACC another.GEN

(私はまたプレミアリーグでプレーするという目標を(念)頭に置いた。)

「<https://www.shorouknews.com/>より。(2020年7月1日)」

(18) における名詞 *hadafa* (目的/目標) は、後続する *ʔan* 節による内容補充を受け、「目標」の具体的な内容及び中身が表されている。名詞 *hadafa* (目的/目標) は、本稿の調査対象の名詞であり、4.2 の (20) に示される調査結果では、内容節による内容補充が受けられない名詞となっているが、(18) に示されるように、書かれる現代標準語として内容節を取る実例がある。このような用いられ方は、ふつうは書かれる現代標準語として見られないため、本稿では、正確なアラビア語と見なさず考察対象外とする。なお、名詞 *hadafa* (目的/目標) に見られるこの統語的振る舞いの変化は、口語において内容節による内容補充が受けられることから口語による転移、もしくは 4.2 でも触れるように、動名詞による内容補充が受けられることから、「動名詞から内容節へ」という推移⁷⁾によるとも考えられる。口語による転移なのか、表現の推移なのかという問題は、今後の研究課題とする。

次に、本調査のデータ収集方法を説明する。

アラビア語の先行研究における名詞の内容補充に関する記述は、前節で見たように、かなり限定的であり、筆者が調べた限り、内容節を受ける名詞を扱う名詞の一覧表などのようなものを掲載している研

⁷ Rohdenburg (2006) は、英語における時代によって変化する補文の用いられ方に着目し、このような変化を「大補文推移 (Great Complement Shift)」と呼んでいる。

究がない。したがって、名詞の収集作業から始める必要がある。内容節の主名詞となる名詞を収集するにあたっては、まず、日本語（寺村（1993）のいう「外の関係」の連体修飾節）及び英語（that 節及び to 不定詞句をとる名詞）に関する先行研究に挙げられる主な名詞を元に、それに対応すると考えられるアラビア語の名詞のリストアップから始めた。その結果、次のページの通り、計 183 名詞のリストができた。

すべての名詞の用例を収集し、各々の名詞が内容節による内容補充を受けられることができるかどうかなどを調べるのが困難であるため、まず、内容補充を受けられるかどうかという判断をアラビア語母語話者である筆者の内省に基いて分析を行った。ただし、母語話者でも迷う場合があったため、ブリガムヤング大学のオンラインコーパス (<http://arabiccorpus.byu.edu/index.php>) を使って、内省判断を確かめる形で用例を探すことにした。なお、用例がなく、内省判断の確認ができなかった名詞は、一つだけある。日本語の「性質」に相当すると考えられる tʻabʕi と tʻibaaʕi である。

ブリガムヤング大学のオンラインコーパスは、エジプト、ヨルダン、クウェートなど数ヶ国の新聞及び小説を収録しており、調査結果に一ヶ国のアラビア語への偏りが出てしまうという心配がない。また、名詞に接続する前置詞、定冠詞、人称代名詞などは基本検索で検索結果に表示され、一回の検索で、様々な形での名詞の実例が確認できる。更に、主名詞とそれに後続する内容節の導入詞、例えば、(1) の haqi:qatu ʔanna で検索すると、基本検索でキーワードの語順のままに完全に一致する用例が検索できる⁸。

なお、主名詞+導入詞という語順で検索できても、内容節が主名詞にかかり、その内容を補充するという働きをしているかどうかを確認する必要があった。例えば、上の (1) の主名詞に定冠詞をつけるだけで、次の (1'') のような意味を表すことになる。

(1'') الْحَقِيقَةُ أَنَّ فَيْرُوسَ كُورُونَا أَثَّرَ عَلَيَّ حَيَاتِنَا

al-haqi:qatu	ʔanna	vajrus	korona	ʔaθθara	ʕala:	haja:tina:
ART-fact.SG.NOM	COMP	virus.SG	corona.SG	Affect.PST.3SG	on	Life.SG.GEN-our

(コロナウイルスが私たちの生活に影響を及ぼしたのは事実だ。)

(1'') では、名詞 al-haqi:qatu が主語であり、その述語は、それに後続する ʔanna 節である。両者の間には、主題題述の関係が成り立っており、本稿の考察対象外である。本稿で考察対象としているのは、ʔanna 節などが名詞（句）に従属し、全体として文中に一つの名詞句として機能するものに限る。

次に、名詞の調査結果を提示する。

4.2. 調査結果

本稿の調査では、4.1 で述べた手順を踏まえ、リストアップした 183 名詞のうち、114 名詞が内容節を取ることが分かった。これらの名詞を次に挙げる。

(19) ʔan 及び ʔanna 節になる内容補充が受けられる名詞 (下線部は動名詞による内容補充が受けられない名詞)

協定	اتفاقية	予測	توقع/توقعات (ب)	保障	ضمان
言いがかり	اتهام ب	自信	ثقة في	要求	طلب (ب)
証明	اثبات	大胆さ	جرأة	野心	طموح

⁸ この検索の仕方では、後に置かれ、主名詞を修飾する形容詞がある場合の用例が検索できない。

確率	احتمال	返事, 手紙	جواب ب	習慣	عادة
必然性	احتمالية	場合, 状態	حالة	申し出	عرض
主張	ادعاء (ب)	自由	حرية	慣習	عرف
告白	اعتراف (ب)	権利	حق في	目的	غرض
信念	اعتقاد (ب)	事実	حقيقة	好奇心	فضول
仮定	افتراض	話, ストーリー	حكاية	アイディア	فكرة
提案	اقترح	夢	حلم (ب)	物語	قصة
発見	اكتشاف	特徴	خاصية	決断	قرار (ب)
感じ	إحساس (ب)	迷信	خرافة	事件	قضية
許可	إذن (ب)	スピーチ	خطاب ب	心配	قلق من
意志	إرادة	計画	خطة	話	كلام
サイン	إشارة ب	危険	خطر	主義	مبدأ
うわさ	إشاعة	危険性	خطورة	試み	محاولة
発表	إعلان	背景	خلفية	気分	مزاج
可能性	إمكانية	恐れ	خوف (من)	問題	مسألة
信仰	إيمان ب	動機	دافع إلى	責任	مسؤولية
ニュース	أخبار	誘い	دعوة (إلى)	感情	مشاعر
命令	أمر ب	証拠	دليل على/ب	問題 (トラブル)	مشكلة
希望	أمل (في)	罪	ذنب	罰 (罰すること)	معاقبة ب
願望	أمنية	意見	رأي (ب)	知識	معرفة
重要性	أهمية	返信	رد ب	情報	معلومات
声明	بيان	メッセージ	رسالة ب	意味	معنى
影響	تأثير	満足	رضا ب	格言	مقولة ب
確認	تأكيد	恐怖	رعب من	注釈	ملاحظة ب
警告	تحذير من	欲望	رغبة في	トピック	موضوع
推測	تخمين	拒否	رفض ل	予言	نبوءة ب
想像	تخيل (ب)	理由	سبب	結果	نتيجة
許可 (書)	تصريح (ب)	幸せ	سعادة (ب)	意志	نية
予想	تصور (ب)	権限	سلطة	見方	وجهة نظر
期待	تطلع إلى	勇氣	شجاعة	狀況	وضع
指示	تعليمات ب	条件	شرط	約束	وعد ب
説明	تفسير ب	気持ち	شعور (ب)	保障	ضمان
考え	تفكير في	苦情	شكوى ب/من	要求	طلب (ب)
報告書	تقرير	熱望	شوق إلى	野心	طموح
予言	تنبؤ ب	ショック	صدمة	習慣	عادة
忠告	تنبيه (ب/إلى)	困難, 難しさ	صعوبة	申し出	عرض
脅迫	تهديد ب	必要性	ضرورة	慣習	عرف

なお、第1節で述べたように、本稿では、動名詞を置き換え可能な表現として扱う先行研究のこの捉え方を検証する目的で、内容節の共起の可否と合わせて動名詞の共起の可否も検討することになっている。筆者の内省によるもののみになるが、動名詞の共起の可否を検討した結果、上記の名詞のうち、和訳に下線を引いてある6の名詞を除き、みな動名詞による内容補充が受けられることが分かった。

次に，内容節を取らない残りの 69 の名詞を挙げる．

(20) ?an 及び?anna 節になる内容補充が受けられない名詞 (*は動名詞による内容補充が受けられる名詞)

例外	استثناء	*経験	خبرة	*畏	فخ
業績	انجاز	*トリック	خدعة	*運命	قدر
*選択	اختيار	誤り	خطأ	*力	قوة ل
*準備	استعداد ل	教訓	درس/عظة	*過去	ماضي (من)
*メカニズム	آلية	*役割	دور	*例え	مثال
電報	برقية	*知性	ذكاء ل	ことわざ	مثل
*プログラム	برنامج	*記憶	ذكرى	冗談	مزحة
*歴史	تاريخ (من)	匂い	رائحة	*企画	مشروع
*商売	تجارة	秘密	سر	*シーン	مشهد
*体験	تجربة	*態度	سلوك	*様子	مظهر
*用意	تحضير ل	*政策	سياسة	*冒険	مغامرة
*訓練	تدريب	性格	شخصية	*利益	مكسب ل
*構造	تركيب ل	形	شكل	*きっかけ	مناسبة
行動	تصرف	声，音	صوت	*景色，ながめ	منظر
区別	تفرقة	絵，イメージ	صورة	*任務	مهمة
*伝統	تقليد	*プレッシャー	ضغط	*職業	مهنة
*練習	تمرين	*人の性質	طَبَع	*資格	مؤهل/مؤهلات ل
*議論	جدل حول	*方法	طريقة	*システム，体制	نظام ل
*努力	جهد/جهود ل	*事情	ظرف/ظروف	*才能	هبة
*事件	حادثة	*仕事，作業	عَمَل	*目的	هدف
*出来事	حدث	関係	علاقة	*義務	واجب
*知恵	حكمة ل	*過程	عملية	*機能	وظيفة
熱意	حماسة ل	*本能	غريزة		

動名詞の共起の可否に関しては，上記の名詞の中に，アスタリスクの付いた和訳の 51 の名詞は，動名詞による内容補充が受けられる．アスタリスクの付いていないものは，動名詞による内容補充が受けられない．

5. 考察

ここでは，第 2 節で取り上げた日本語及び英語の先行研究に見られる主な捉え方などを参考に，内容節を取る名詞について一考察を行う．

まず，内容節を取る動詞や形容詞との関連付けという観点に着目し，上の (19) の名詞の中には，内容節を取る動詞や形容詞から派生されたものがあるのかを見て行く．このような関連付けは，外国語教育の観点から実用的であると考えられる．というのも，似たような持つ語や表現は似たような統語構造に用いられる傾向があると考えれば，学習者はすでに学習した語で新しく学習する語の統語的振る舞いを予測しやすいと考えられるからである．この点については，Dixon (1992) は次のように述べている．

“Once a learner knows the meaning and grammatical behaviour of most of the words in a language, then from the meaning of a new word he can infer its likely grammatical possibilities; ...”

Dixon (1992:6)

「学習者は、ある言語のたいていの語の意味と文法的振る舞いを知ったら、新しい語の意味から、その語の可能な文法的な用いられ方を推測することができる、…」

内容節を取る動詞から派生されて名詞の有無を調べると、次の (21) に示される 56 の名詞があることが分かった。

(21) 動詞から派生された名詞

言いがかり	اتهام ب	推測	تخمين	満足	رضا ب
証明	اثبات	想像	تخيل (ب)	恐怖	رعب من
主張	ادعاء (ب)	許可 (書)	تصريح (ب)	欲望	رغبة في
告白	اعتراف (ب)	予想	تصور (ب)	拒否	رفض ل
信念	اعتقاد (ب)	期待	تطلع إلى	幸せ	سعادة (ب)
仮定	افتراض	考え	تفكير في	気持ち	شعور (ب)
提案	اقتراح	報告書	تقرير	苦情	شكوى ب/من
発見	اكتشاف	予言	تنبؤ ب	保障	ضمان
感じ	إحساس (ب)	忠告	تنبيه (ب/إلى)	要求	طلب (ب)
許可	إذن (ب)	脅迫	تهديد ب	野心	طموح
意志	إرادة	予測	توقع/توقعات (ب)	申し出	عرض
うわさ	إشاعة	話, ストーリー	حكاية	物語	قصة
発表	إعلان	夢	حلم (ب)	決断	قرار (ب)
信仰	إيمان ب	恐れ	خوف (من)	心配	قلق من
命令	أمر ب	動機	دافع إلى	試み	محاولة
希望	أمل (في)	誘い	دعوة (إلى)	罰 (罰すること)	معاقبة ب
影響	تأثير	証拠	دليل على/ب	意志	نية
確認	تأكيد	罪	ذنب	約束	وعد ب
警告	تحذير من	意見	رأي (ب)		

次に例を挙げる.

(22) ما دَفَعَ الْجَيْشَ الْمِصْرِيَّ لِإِعْلَانِ أَنْ مِصْرَ لَنْ تُصِيحَ دَوْلَةً دِينِيَّةً عَلَى غِرَارِ إِيرَانِ

ma:	dafaʕa	l-zayʕa	l-misʕriyya	li-ʔiʕla:ni	ʔanna	misʕra	lan
RELPRN	force.PST.3SG	ART-army.ACC	ART-egyptian.ACC	to-announcement.GEN	COMP	Egypt.ACC	NEG
tusʕbiha	dawlatan	di:niyyatan	ʕala:	yira:ri	ʔira:n		
become.PRS.3SG	country.ACC	religious.ACC	on	model.GEN	iran.GEN		

(これは，エジプト軍を駆り立てて，エジプトがイランのような宗教国家にならないという
 発表をさせた.)

「アルガド紙 2011 年 3 月 4 日」

(22') **أَعْلَنَ الْجَيْشُ الْمِصْرِيُّ أَنَّ مِصْرَ لَنْ تُصِيحَ دَوْلَةً دِينِيَّةً عَلَى غِرَارِ إِيْرَانِ**

ʔaʕlana	l-zayfu	l-misʕriyyu	ʔanna	misʕra	lan
announce.PST.3SG	ART-army.NOM	ART-egyptian.NOM	COMP	Egypt.ACC	NEG
tusʕbiha	dawlata	di:niyyatan	ʕala:	yira:ri	ʔira:n
become.PRS.3SG	country.ACC	religious.ACC	on	model.GEN	iran.GEN

(エジプト軍はエジプトがイランのような宗教国家にならないと発表した.)

(23) **وَالْإِدِّعَاءُ أَنَّ فِي إِسْرَائِيلَ حُكُومَةً تَتَحَرَّكُ سِيَّاسِيًّا، هُوَ إِدْعَاءٌ زَائِفٌ.**

wa	l-iddiʕa:ʔu	ʔanna	fi:	ʔisra:ʔi:la	huku:matan	tataharraka	siya:siyyan
and	ART-claim.NOM	COMP	in	Israel.GEN	government.GEN	move.PRS.3SG	politically.GEN
huwa	d-diʕa:ʔun	za:ʔifun					
PRON.3SG[COP]	ART-claim.NOM	false.NOM					

(イスラエルに政治的に動く政府があるという主張は虚偽の主張である.)

「アルガド紙 2011 年 3 月 28 日」

(23') **إِدِّعَى أَنَّ فِي إِسْرَائِيلَ حُكُومَةً تَتَحَرَّكُ سِيَّاسِيًّا**

iddiʕa:ʔu	ʔanna	fi:	ʔisra:ʔi:la	huku:matan	tataharraka	siya:siyyan
claim.PST.3SG	COMP	in	Israel.GEN	government.ACC	move.PRS.3SG	politically.ACC

(彼はイスラエルに政治的に動く政府があると主張した.)

(22) では，主名詞ʔiʕla:ni (発表) の内容はそれに後続するʔanna によって表されている．名詞のʔiʕla:n は，(22') に示されるように内容節を取る動詞ʔaʕlana (発表する／公表する) から派生されており，基体の動詞が補語としてʔanna 節を取ることを引き継いでいると考えられる．(23) の iddaʕa:ʔ (主張) も同様に，(23') に示されるように内容節を取る動詞の iddaʕa: (主張する) から派生した名詞で，基体の動詞と同様に，ʔanna 節を取る．

動詞から派生されたと考えられる名詞のうち，基体の動詞が前置詞を要求する場合，それも引き継ぐものがある．次に例を挙げる．

(24) **وَيَحْتِمُ رَائِشُ شَهَادَتَهُ بِالْتَّحْذِيرِ مِنْ أَنَّ الْأَزْمَةَ الْمَالِيَّةَ مازالت قائمةً**

wa	yaxtimu	rayf	ʕaha:data-hu	bi-t-tahʕi:ri	min	ʔanna	l-ʔazmata
and	conclude.PRS.3SG	Reich	testimony.ACC-his	with-warning-GEN	from	COMP	ART-crisis.ACC
l-ma:liyyata	ma:za:lat	qa:ʔimatan					
ART-financial.ACC	still	existing.GEN					

(ライシュは，金融危機がまだ続いているという警告で証言を締めくくる.)

「アッシュルーク紙 2010 年 1 月 21 日」

(24') رايش حَذَّرَ مِنْ أَنَّ الْأَزْمَةَ الْمَالِيَّةَ مازالت قائمةً

rayʃ	haððara	min	ʔanna	l-ʔazmata	l-ma:liyyata	ma:za:lat	qa:ʔimatan
Reich	warn.PST.3SG	from	COMP	ART-crisis.ACC	ART-financial.ACC	still	existing.ACC

(ライシュは、金融危機がまだ続いていると警告をした。)

(24) における主名詞 tahði:r (警告) は、動詞の haððara から派生した名詞で、基体の動詞と同様に、前置詞 min (～から) を要求する。(24) で見られるように、主名詞 tahði:r (警告) の内容を補う ʔanna 節の前に、前置詞の min が置かれている。なお、上の (19) 及び (21) の名詞一覧表では、名詞が取る前置詞が名詞の後に掲載されており、必須でない前置詞には括弧がついている。

英語の先行研究では、内容節を取る形容詞から派生された名詞に関する記述も見られるように、アラビア語にもこうした名詞の有無を調べると、形容詞から派生されたと考えられる名詞が見られないが、形容詞に類似する意味を持つ ʔimka:niyyah (可能性) や ʔahammiyyah (重要性) のような少数の名詞が見られる。アラビア語では基本的に、英語の It is ...that (ということは～である) に相当すると考えられる、min ...ʔan で使われる形容詞 (実質的に名詞として扱われる) 以外、本稿で扱っている名詞のように、形容詞が内容節を従えることがほとんどないので、形容詞から派生した名詞も内容節を従えることがないと言えるだろう。

このように、英語や日本語の先行研究に見られる捉え方の一つのアラビア語における内容節を取る名詞への応用を試み、その捉え方がある程度有効であると言えるが、内容節を従える動詞から派生したと考えられない名詞の数が少ないため、内容節を取る名詞自体の意味などに着目したアプローチが必要だと考えられる。今後は、データを増やし、先行研究に見られるように名詞の意味的な分類を行った上、同じ範疇的な意味に属する名詞の用いられ方に見られる意味的及び構文的特点を明らかにしたい。

最後に、内容節を取る名詞について触れておきたいことが2点ある。一つ目は、内容節を取る名詞に数えられるかどうかという判断に迷う名詞があったことである。二つ目は、名詞の中には、動名詞による内容補充を受けない名詞があることである。

まず、内容節を取る名詞に数えられるかどうかという判断に迷う名詞について述べる。

内容節を取る名詞の中には、動詞などと慣用的に連鎖として用いられている次の (25) に挙げる名詞がある。

(25) 慣用的に用いられる名詞

ニュース	أخبار	権限	سلطة	気分	مزاج
大胆さ	جرأة	条件	شرط	知識	معرفة
場合、状態	حالة	習慣	عادة	情報	معلومات
計画	خطة	慣習	عرف	意味	معنى
背景	خلفية	目的	غرض		
理由	سبب	好奇心	فضول		

(25) の名詞は、決まった動詞や前置詞などと共起した場合に限って、内容節を取ると考えられる。例えば、

(26) لَقَدْ كَانَتْ تَصْلِيْنِي اٰخْبَارًا اَنَّ بَعْضَ اللّٰعِيْبِيْنَ كَانُوْا يَنْتَقِدُوْنِيْ
 laqad ka:nat tas'iluni: ʔaxba:run ʔanna baʕd'a l-la:ʕibi:na ka:nu: yantaqidu:nani:
 PTL-be.PST.3SG reach.PST.3SG-me news.NOM COMP some ART-players.GEN be.PST.3SG criticize.PRS.3PL-me

(一部の選手が私を批判しているという噂を聞いていた.)

「サウラ紙」⁹

(26') *سَمِعْتُ/عَرَفْتُ اٰخْبَارًا اَنَّ بَعْضَ اللّٰعِيْبِيْنَ كَانُوْا يَنْتَقِدُوْنِيْ
 samiʕtu/ʕaraftu ʔaxba:run ʔanna baʕd'a l-la:ʕibi:na ka:nu: yantaqidu:nani:
 hear/listen.PST.1SG news.NOM COMP some ART-players.GEN be.PST.3SG criticize.PRS.3PL-me

(一部の選手が私を批判していると聞いた／知った.)

(26) の主名詞 ʔaxba:r (ニュース／噂) は，主語として動詞の tas'il (来る) と用いられる場合，内容節を取るが，(26') に示されるように，動詞の tas'il (来る) と共起しない場合，内容節との親和性が低くなり，非文になる。(26) の主名詞 ʔaxba:r (ニュース／噂) は，機能動詞¹⁰と考えられる動詞と共起し主名詞と動詞の tas'il (来る) という全体が，「聞く」という動詞に相当する意味を表していると言える。名詞 ʔaxba:r (ニュース／噂) のような名詞は，コーパスによる内容節が出現する用例を見る限り，決まった動詞などと共起し，名詞と動詞などから成る定型表現及び慣用句として用いられていることが分かる。なお，動詞の他に，(11) や (14) ～ (17) に見られる Badawi et al. (2016) のいう複合前置詞句のものもある。本稿では，(25) の名詞の扱いに関しては，収集した用例が少ないことなどから，判断材料が不十分であるため，内容節を取る名詞に数えることにした。今後，用例を増やすとともに，このような種の名詞の用法を検討したい。

次に，名詞の中には，動名詞による内容補充を受けない名詞があることについて述べる。

第3節で見たように，Badawi et al. (2016) では，動名詞が内容節，とりわけ ʔan 節と置き換え可能であるとしているが，本調査では，ʔan 及び ʔanna 節を取る名詞の中には，動名詞による内容補充を受けない名詞があることが分かった。これらの名詞は，次の (27) に挙げる。

(27) ʔan 及び ʔanna 節のみによる内容補充が受けられる名詞

説明	تفسير ب	スピーチ	خطاب ب	格言	مقولة ب
返事，手紙	جواب ب	返信	رد ب	注釈	ملاحظة ب

(27) の名詞は，みな言語活動による言語作品を表し，また ʔan 及び ʔanna 節による内容補充を受ける際

⁹ コーパスには，具体的な発行日付が示されていない。

¹⁰ 機能動詞は，村木 (1991:203) では，「実質的な意味を名詞にあずけて，みずからはもっぱら文法的機能をはたす動詞」と定義されており，「する」を典型的な機能動詞と見なすほか，「誘いを受ける」の「受ける」のようなヴォイス的な意味，「実施に移す」の「移す」のようなアスペクト的な意味，「譲歩を示す」の「示す」のようなムード的な意味を特徴づける動詞をも幅広く機能動詞のカテゴリに取り入れている。

に、前置詞の bi の介在を必要とするという点において共通している。次に例を挙げる。

(28) **الْبَعْضُ لَدَيْهِ تَفْسِيرٌ بِأَنَّ أُوْبَامَا خَدَعَنَا، وَغَيْرَ مَوْعِدٍ وَوُضُولِهِ**

al-baʕdʰu ladaiy-hi tafsi:run bi-ʔanna ʔubama xadaʕa-na: wa
ART-some.NOM with-his explanation.NOM bi-COMP Obama.GEN deceive.PST.3SG-us and

yayyara mawʕida wusʕu:li-hi
change.PST.3SG time.ACC arrival.GEN-his

(オバマが私たちを騙し、到着時間を変更したという説明 (考え) を持っている人が何人かいる.)
「アッシュルーク紙 2009 年 6 月 5 日」

(28) に示されるように、前置詞 bi のついた ʔanna 節が主名詞 tafsi:r の内容を補充している。このタイプの名詞が必要とする前置詞 bi のこの用法が非常に興味深い。というのは、ここまで見てきた名詞の中には、一律に同じ前置詞を取るという名詞のグループがなかったからである。前置詞 bi の内容を表すという意味的機能についての記述を参考文献で見ると、Badawi et al. (2016), Ryding (2005), Wright (1991) では、言及されていないが、Fischer (1972:136) では、内容を表す前置詞 bi の例として、ʔmara bi-qatlihi (彼が彼の殺害を命じた) というように、「命令する」という動詞の目的語、いわば命令の内容を表す前置詞 bi が挙げられている。ここまで見てきた名詞を振り返ってみると、動詞から派生されたものを含み、前置詞 bi と共起する名詞は、比較的多いことが分かる。そして、そのほとんどが上の (27) と同様に、言語活動に関係する名詞であることが分かる。前置詞 bi は、どんな名詞と共起し、具体的にどのような働きをするのか検討する必要がある、今後の課題にしたい。

6. おわりに

アラビア語における名詞の内容補充の研究は、英語や日本語に比べて、十分に進んでいると言えない。Badawi et al. (2016) で見たように、名詞の「イダーファ (付加)」として扱われる ʔan 節及び ʔanna 節の文中の働きに沿っての記述しか見られず、未だ ʔan 節及び ʔanna 節を従える名詞の振る舞い及び性質などが考察対象されていない。本稿では、内容節を取る名詞の調査を行い、名詞の特性や名詞と内容節の間の意味関係に着目した研究及び記述の必要性に光を当てることができた。本稿の調査では、先行研究や教科書などに見られない内容節を取る名詞のリストを作り、英語及び日本語の先行研究に見られる名詞の捉え方などを参考に、アラビア語における内容節を取る名詞について一考察を行った。本稿では、アラビア語を第 2 言語として習得もしくは使用する者が必要とすると考えられる最低限の情報を提供することができた。今後の研究課題は、名詞の特性及び名詞と内容節の間の意味関係という視点から、アラビア語における名詞の内容補充の研究を進め、日本語と対照し名詞の内容補充の実態を解明することである。

【記号一覧】

1	first person	PASS	passive
2	second person	PASSPTCP	passive participle
3	third person	PL	plural
ACC	accusative	PREP	preposition

ART	article	PRS	present
COMP	complementizer	PST	past
COP	copula	PTCP	participle
FUT	future	PTL	particle
GEN	genitive	RELPRN	relative pronoun
NEG	negation	SG	singular
NOM	nominative		

参考文献

- 寺村秀夫.1975-1978.「連体修飾のシンタクスと意味 -その1~4-」,『日本語・日本文化』4~7号,大阪外国語大学研究留学生別科(寺村秀夫(1993:157-320)に再録)
- 寺村秀夫.1993.『寺村秀夫論文集I -日本文法編-』くろしお出版
- 村木新次郎.1991.『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- Badawi, E. Carter, M. G. and Gully, A. 2016. *Modern Written Arabic: A Comprehensive Grammar. London and New York: Routledge.*
- Cantarino, V. 1974. *Syntax of Modern Arabic Prose II.* Indiana: University Press.
- Dixon, R. 1992. *A New Approach to English Grammar, on Semantic Principles.* Oxford: Clarendon Paperbacks.
- Dixon, R. 2006. Complement clauses and complementation strategies in typological perspective. In Dixon R. & Aikhenvald Y. (eds), *Complementation: A cross-linguistic typology*, 1-48. Oxford: Oxford University Press.
- Fischer, W. 1972. *Grammatik des klassischen Arabisch.* Wiesbaden: Harrassowitz.
- Huddleston, Rodney. 1984. *Introduction to the grammar of English*, Cambridge etc.: Cambridge University Press.
- Huddleston, R. and Pullum, G. K. 2002. *The Cambridge grammar of the English language.* Cambridge: Cambridge University Press.
- Jespersen, Otto. 1927. *A Modern English grammar on historical principles III.* Heidelberg: Carl Winters Universitätsbuchhandlung.
- Karin, C. Ryding. 2005. *A Reference Grammar of Modern Standard Arabic.* Cambridge: Cambridge University Press.
- Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. and Svartvik, J. 1985. *A comprehensive grammar of the English language.* Harlow: Longman.
- Radford, A. 1988. *Transformational Grammar.* Cambridge: Cambridge University Press.
- Ratcliffe, R.2002. 「アラビア語の二重言語性からみる規範と教育」,『語学研究所論集』7, pp.163-168.
- Rohdenburg, G. 2006. The Role of Functional Constraints in the Evolution of the English Complementation System. In: Christiane Dalton-Puffer, Dieter Kastovsky, Nikolaus Ritt and Herbert Schendl (eds), *Syntax, Style and Grammatical Norms*, 143-166. Bern: Peter Lang.
- Wright, W. 1991. *A Grammar of the Arabic Language.* Cambridge University Press.
- Zandvoort, Reinard W. 1965. *A Handbook of English Grammar.* 3rd ed. London: Longman.

執筆者連絡先 : moh.fathy.mah@gmail.com

原稿受理 : 2020年12月16日